

かながわの

学びづくりプラン

平成 20 年度に始まった「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」は、12年目を迎えています。平成 30 年度の「かながわ学力向上シンポジウム」（平成 31 年 1 月 18 日開催）は、前年度に引き続き、校内研究と各学校の研究主任にスポットを当て、先生方が目の前の子どもの成長を願い、主体的に授業研究を推進していくことについて、基調講演やパネルディスカッションを通して語り合い、今後の校内研究の在り方について考えました。

基調講演『『学びづくり』から『つながりづくり』へ』

横浜国立大学の池田敏和教授より、研究主任を経験した先生や指導主事の事前アンケートをもとに、『学びづくり』から『つながりづくり』へ』という演題でご講演いただきました。

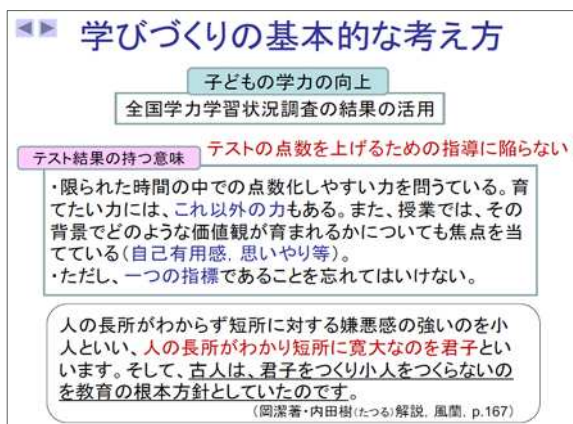
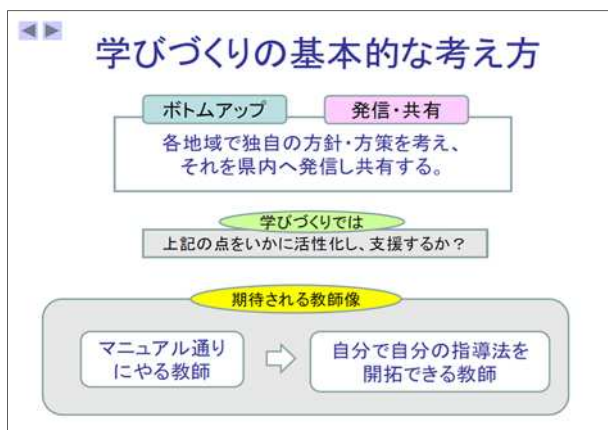
事前アンケートの問い

「研究主任の経験は、今の自分にどのように役立っていますか。」

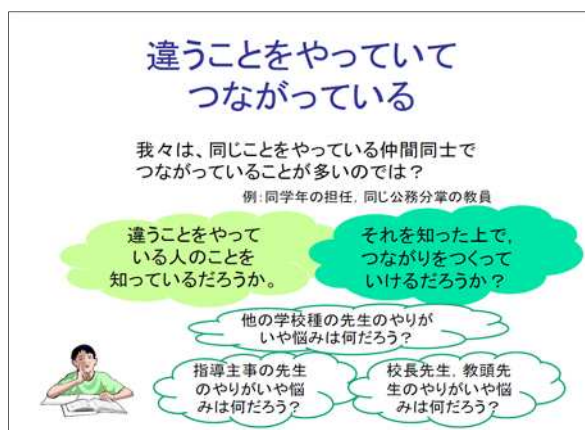
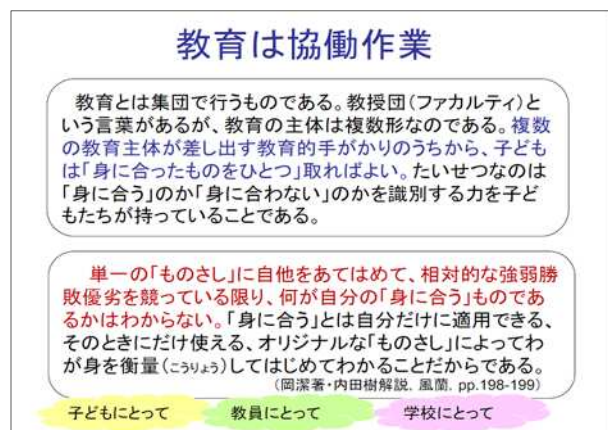


横浜国立大学 池田 敏和 教授

■ 「かながわの学びづくり」の基本的な考え方



■ 「つながりづくり」へ



つながりづくり

みんなで子どもを育てる(学びづくり)
教員の成長, 充実感を捉える三つの視点



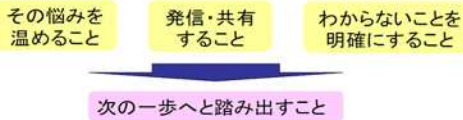
研究主任としての悩み どのように受け止めているだろうか？



素朴な悩みから問題設定へ

研究主任の立場としてよい研究を求め推し進める自分(外的)、それに組み込む自分の悩み(内的)、両者をどのように受け止めているだろうか。

自分の内的な悩みは、研究を深めるための問題発見に繋がる原動力では！



向上心

素朴な悩みを温め、発信・共有し、問題発見へつなげていくこと

複数の理想像を知ると共に、理想像を語り合っていくこと

小人は自分の知っていることでなければ知ろうとしない。自分がすでに知っていることを水平方向に、量的に拡大することしかできない。かれらは自分が何を知っていて、何を知らないのかについて、今の自分の立ち位置とは違う想像的な視座から俯瞰的に見下ろすことができない。自分が何を知らないのか、何ができないのかについて知ることができなければ、それを言葉にできなければ、人は向上のしようがない。

(岡潔著・内田樹解説、風聞、p.193)

事前アンケート回答まとめ「研究主任の経験は、今の自分にどのように役立っていますか。」

- 校内の先生方をまとめることに役立っている
 - ・ 研究推進の手順を理解
 - ・ 自分の職場での立場理解と業務遂行
 - ・ 多様性を生かせる
- 研究を深めることに役立っている
 - ・ 研究テーマ設定とその推進
 - ・ 根拠を明確にした発言
 - ・ 実践者のよさを引き出す
 - ・ 大局的な視点に立つ
- 自分を成長させることに役立っている
 - ・ 何を大切にするかを焦点化
 - ・ 自分の生き方につながっている
- 受信・発信等により研究のネットワークを広げることに関与している
 - ・ 輪が広がる
 - ・ アンテナを磨くこと
 - ・ 発信することの重要性
 - ・ 目指す方向が見える

■池田先生より 研究主任へ

- ・ 自身の素朴な悩みを温め、発信・共有し、問題発見へとつなげていくこと。
- ・ 複数の理想像を知るとともに、理想像を周囲の人と語り合っていくこと。
- ・ やらされているのではなく任されているという自覚をもつ。
- ・ 研究主任が学ぶ姿を見せることが、より若い世代の教員の成長、学校の成長へとつながる。

パネルディスカッション

「子どもや先生が元気になるための学びづくり、つながりづくり～校内研究のさらなる充実を目指して～」


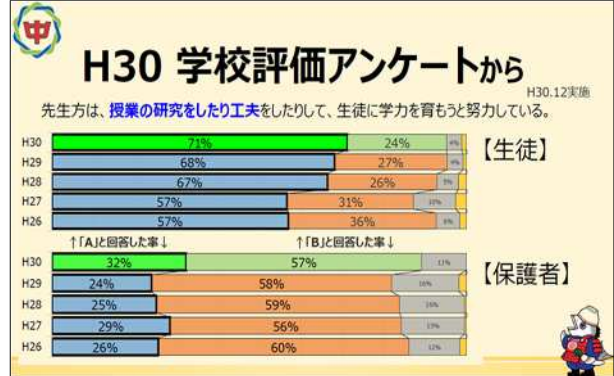


コーディネーター	横浜国立大学教育学部	教授	青山 浩之 氏
登壇者	横浜国立大学教育学部	教授	池田 敏和 氏
	三浦市立三崎中学校	研究主任	三富 洋介 教諭
	三浦市立岬陽小学校	研究主任	外館 ゆき子 総括教諭
	三浦市立初声小学校	研究主任	佐藤 隆太郎 教諭

■三浦市立三崎中学校の研究より

現在……

- ・「ふらり授業訪問」
- ・「授業について考える」空气の醸成
- ・見通しと振り返り
- ・意識して授業を行う
 - ・横のつながり・グループの組み方・日常での声かけ
- ・池田敏和先生を招聘した校内研究会
 - ・年3回の授業研究会をつなぐ

■三浦市立岬陽小学校の研究より

5. 研究の実際

【1】指導案検討

- 低・中・高学年ブロックごとの検討 一ほほ全員が参加
- 「丸テーブル」で顔を見合いながら。

クラスの
子供たちの実態

授業者の
思いや願い

子供が「何をどのように学ぶのか」

授業者と一緒に、授業をつくる。

○先生方一人一人の豊富な知識や得意なことを生かしてもらおう。

- ・学習履歴、子供の個性や特徴
- ・これまでの経験、高い専門性
- ・自分がわからないこと

**頼る＝
教師のよさを生かし合う**

6. 研究から見えてきたもの

○個を生かすクラス・授業づくり
↓
子供同士も互いの個性を認め合う
↓
多様な考えの表出 **自分の考えを「もつ」** 主体的に学ぶ姿

○「つながり」を意識したクラス・授業づくり
↓
教師が「つなぐ」 自己肯定感 所属感
↓
子供同士が「つなぐ」「つなごうとする」 対話的に学ぶ姿

教師 「一人一人に応じた支援」
「個を生かす授業づくり」

子供 「自分らしくいきいきと」

■三浦市立初声小学校の研究より

今年度の研究

テーマ **主体的に学ぶ子**

～主体的な学びへつながる授業作りを目指して～
改めて、本校における児童の課題を全職員で見直す。

↓
「主体性」に課題があるという意見が大半

今年度は、特に主体性に焦点をあてて研究を行うことに

中学校でも、近いテーマで研究

↓
小中で研究テーマを統一して更に連携を深めていく

授業の見方も変えていく

子どもを通して授業を見る(全体での研究協議会)

今まで: 授業の手立てと教師の授業力に焦点をあてていた。

- ・抽出児の設定
- ・参観シートの活用(特定の子の様子を中心に授業記録をとる)

その子の姿から「その子にとって」より良い授業を考えていく。

○協議会
4グループに分かれての付箋協議、ムービングコミュニケーション



参加者のアンケートより ◆立場の違う人の思い、やりがい、悩みなどを聞いたり考えたりして、つながっていききたい。(小学校教員)

◆校内研究の進め方、構想の練り方のイメージがわいた。各学校の取組が参考になった。研究テーマを中心に授業を計画し、やりながら全員がテーマに対する思いをつなぐことが大切。(中学校教員)

◆「素」の自分を互いに出し合い、きどらず、肩ひじを張らない姿、考え、思いを受け止め合い設定していった問題は次につながる。教職員の考えがつながることは大きな力になると感じた。(指導主事)

子どもたちの現状把握 ～全国学力・学習状況調査の活用～

校内研究を進めていくにあたり、子どもたちの現状を把握するための手段の一つとして、全国学力・学習状況調査があります。神奈川県では、県での全国学力学習状況調査の分析を踏まえ、「強み」を生かし「課題」を改善するために、必要と考えられる取組等を「かながわの学びの充実・改善のために」に示しています。



「学びの充実・改善ポイント」より

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業づくりをより充実させましょう。
 - ・学級やグループ、ペア等で話し合う時間を適切に設ける指導の工夫
 - ・教員自らが意欲的に取り組めるような校内研究の実施 等
- ② 児童・生徒一人ひとりの学習上の困難さを的確に捉え、個に応じた指導法を工夫しましょう。
 - ・障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深めて授業改善に生かす取組
 - ・児童・生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える取組 等
- ③ 児童・生徒の視点に立った授業づくり、学校づくりを、家庭・地域とともに進めましょう。
 - ・一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、肯定的にとらえる視点をもった指導
 - ・家庭・地域との協働による教育活動の実施、「いのちの授業」の充実 等
- ④ 自校の調査結果を学校全体で有効に活用しましょう。(新規ポイント)
 - ・自校の結果を分析し、教職員全員で自校の強みや課題、児童・生徒に付けたい力などを共有する取組
 - ・分析を基に学校全体で具体的な教育活動の改善につなげる取組 等

[参考 神奈川県ホームページ www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/prs/r5658243.html]

「学びの充実・改善ポイント」④にもある通り、自校の調査結果を、調査対象学年・教科だけでなく全教職員で分析・検証する中で、自校の強みや課題、児童・生徒に今後求められる資質・能力等を明確化し、共有することは、児童・生徒を中心に据えたカリキュラム・マネジメントに欠かせません。各学校において、学校教育目標の実現に向け、PDCAサイクルの中に全国学力・学習状況調査の分析を位置づけることが重要です。また、よりよい学校教育を創るために結果を保護者や地域の人たちに公表し、協働して教育活動を進めていきましょう。

校内研修等での取組例

◇全国学力・学習状況調査の問題を解く

職員全員で、あるいは保護者や地域の人とともに、問題を解いてみることで、今大切な学力とは何か、実感することができます。

◇自校採点による児童・生徒の知識・理解の状況の把握

一人ひとりの児童・生徒の学習状況を知ることで、いち早く授業改善に生かすことができます。

◇全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校の教職員全員で共有する

課題を共通認識し、組織としての改善方策を立案・実施することができるとともに、校内研修にいかすことができます。

◇授業アイデア例等の活用した授業づくり

国立教育政策研究所のホームページには、課題を解決するための授業アイデア例が平成21年から掲載されています。「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりの参考にもなります。

[参考：授業アイデア例ホームページ <http://www.nier.go.jp/jugyourei/>]